

1月の果実の見通し

令和2年12月25日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
りんご類	青森 長野 山形 ほか	4818	105%	5701	343	平年並み ~安い	307	118	2.0%	年明けからは青森県産貯蔵品中心の販売となる。青森県産貯蔵品の数量はほぼ平年並みにあり、少なかった前年のような不足感はない。 入荷は36玉、40玉中心に前年以上に見込まれることから、相場は年内の流れと変わらず、前年より弱めの展開。
いちご類	栃木 福岡 静岡 佐賀 ほか	3000	105%	3523	1799	安い	1548	-	-	太平洋側では気温が低いものの天候に恵まれたため、出荷量は12月中旬以降1月中旬頃まで潤沢な出回り。 2果房も順調に生育しており、1果房の出荷に連続して1月下旬頃から出荷開始の見込み。
キウイ	和歌山 福岡 愛媛 ほか	734	100%	698	500	平年並み ~安い	484	25	3.5%	年明けは週1~2回、「ハイワード」中心の販売となる。 33玉中心の出荷で、やや大きめサイズの出荷だった前年に比べてやや小玉となる。出荷量は前年並み~少ない。
みかん類	愛媛 長崎 熊本 ほか	13993	110%	13372	276	高い~平 年並み	307	-	-	年内は食味の良い状態の出荷となった。 年明けは早生種が残るが、静岡県産「青島」中心の販売。出荷量は雹害を受けた前年を上回る。 みかん全体では量に不足はない。 愛媛県産「袋掛けみかん」等の高単価商品の販売も始まる。
干し柿	山梨 長野 福島	300	100%	317	1699	平年並み	1599	1	0.3%	原料柿の生産量は産地間で差があり、全体では多くない。 年内販売が主力なので年明け1月以降は減少する。山梨県、富山県産は1月上旬まで、長野県産「市田柿」は例年通り3月いっぱいまで、前年に比べて量は少ない。 福島県産「蜂屋柿」は前年並みから若干多い。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果㈱)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)